

会議名 第5次総合計画検討特別委員会

日時 令和2年6月18日(木) 午後1時10分～午後3時36分

場所 第2・第3委員会室

出席議員(全議員)

委員長	黒川 武	副委員長	木村冬樹	委員	梅村均
委員	片岡健一郎	委員	鬼頭博和	委員	谷平敬子
委員	水野忠三	委員	大野慎治	委員	宮川隆
委員	須藤智子	委員	井上真砂美	委員	伊藤隆信
委員	関戸郁文	委員	堀 巖	委員	榎谷規子

説明者 秘書企画課長 伊藤新治、同主幹兼市制50周年推進担当 小出健二

事務局出席 議会事務局長 丹羽至、同主任 高野真理子

第5次総合計画検討特別委員会（令和2年6月18日）

◎委員長（黒川 武君） 皆さん、こんにちは。

お忙しいところお集まりいただき、ありがとうございました。定刻になりましたので、これより第5次総合計画検討特別委員会の開催とさせていただきます。

なお、本日の出席状況でございますが、須藤委員が少々遅れると、そういった連絡を頂いておりますので、御了解を頂きたいと思っております。

4月7日以来、約2か月ちょっと過ぎたところでの開催ということになりました。この間いろいろ外出自粛とか人との接触8割削減と、そういう関係等もございまして、特別委員会の開催を見合わせたところではございますが、まだまだ我々がやるべきことというのは山積いたしております。また、本日も後で述べたいと思っておりますけれど、なかなかボリュームがあるところを皆さんにお願いすることになりますので、御協力のほうをよろしくお願ひしたいと思っております。

本日、執行機関側から秘書企画課長、ちょっと御挨拶していただけますか。

◎秘書企画課長（伊藤新治君） 皆さん、こんにちは。

すみません、今日第2回目ということで、本日は第2章のところの評価シートについてお話しさせていただきたいと思っておりますので、よろしくお願ひいたします。

◎委員長（黒川 武君） ありがとうございます。

皆さんのお手元のほうに本日の次第と、それから第2章、第3章に関わるところの計画の施策体系と、こういったものがございまして、それぞれ御参照していただきたいと思っております。

本日の議題は、(1)今後の進め方、(2)第4次岩倉市総合計画基本施策実績評価第2章及び第3章、この2つではございます。今後検討を進めるに当たり、委員長よりお願いがございまして。

前回にも申し上げましたとおり、限られた時間内での検討となりますので、細かい部分で疑問に思うことや聞きたいことも多々あるかと思っておりますが、それらにつきましてはできるだけ個々で担当に聞くなりして勉強を深めていただきたいと思っております。ここでは第4次総合計画において課題が達成できているのか、積み残しの課題はあるのか、新たな課題はどうかなどの観点から評価を頂き、第5次総合計画へつなげていく、そういった方向性を検討することに留意をお願いしたいと思っております。

それと第4次総合計画の実績評価の検討につきましては、7月中に終了し

たいということで、また最後のところで日程の調整もさせていただきますので、よろしくお願いをいたします。

それでは、議題に入ります。

(1)今後の進め方についてを議題とします。

秘書企画課長から説明をお願いします。

◎**秘書企画課長（伊藤新治君）** それでは、A4縦の今後の予定（スケジュール見直し後）という資料を御覧ください。

前は12月議会提案というところでお示ししたスケジュールですが、先日全員協議会のほうでお話しさせていただきましたが、コロナウイルス感染症予防の関係で会議等も自粛というところで、3か月延ばして令和3年3月議会へ提出に向けたスケジュールを見直しさせていただきました。

1番のところでは、基本構想及び基本計画案の作成、これはもともと7月までに終わる予定でしたが、これを10月までに少し延ばしていただいて、総合計画審議会も第1回目を8月3日、第2回目は8月17日、この2回を予定しておりますので審議会のほうも今後全6回（全体会3回、各部会3回）を予定しております。

3番の第5次総合計画検討特別委員会は、まさにここの委員会ですので、この中でもいろいろ決まったこと等を御報告させながら御意見を頂きたいと思っております。

4番目のパブリックコメントも10月に予定していたものを12月から1月の期間に30日間パブリックコメントを実施していきたいというところと、5番、市民フォーラムはここも10月に予定していたんですけども、フォーラムについてはコロナの関係で、多目的ホールを予定していたんですけど、多目的ホールに市民の皆さんを多く集めてフォーラムをやるということについてどうかということもありますので、もしかしたらフォーラムのほうは中止とさせていただいて進めさせていただくということも今後あり得ますので、その辺も今後審議会等で検討していきたいと思っております。

6番のところでは、2月に議案の提出をして、3月議会のほうで議論をしていただきたいというスケジュールに変更させていただいて、今後進めさせていただきたいと思っておりますのでよろしくお願いをいたします。以上です。

◎**委員長（黒川 武君）** ありがとうございます。

ちょっと委員長のほうから訂正をお願いしたいと思うんですが、3)の第5次総合計画検討特別委員会、ここでは令和2年3月から11月と書いてありますが、当然我々のほうも執行機関と合わせる形で延期が必要だろうということで、令和3年2月、そういうことでそのところの修正のほうをお願い

いたします。3)の第5次総合計画検討特別委員会は、令和2年3月から令和3年2月ということでの訂正をお願いしたいと思います。

それでは、スケジュール変更の説明がございました。これにつきましてお聞きになりたいことがございましたら発言をお願いします。よろしいですか。

[挙手する者なし]

◎委員長(黒川 武君) 発言なしと認めます。

これをもって(1)今後の進め方については終結といたします。

続きまして、(2)第4次岩倉市総合計画基本施策実績評価第2章及び第3章についてを議題といたします。

なお、進め方につきましては、前回と同様に基本施策ごとに検討をお願いいたします。

最初に、第2章、自然と調和した安全でうるおいのあるまちの基本施策、水辺環境の整備・活用についてから入りたいと思います。

委員の皆さんの発言を求めます。

◎副委員長(木村冬樹君) 個別施策、指標がいろいろ出ているわけで、五条川の保全と巾下川、矢戸川の2つあるわけですね。これが比較する指標にはなっていないということで、五条川のBOD値がどこに載っているかというところと公害防止のところと載っているんですよね。だから、何となくその辺の目標値の設定についてはちょっと検討が必要じゃないかなというふうに思います。

BOD値をそれぞれ載せる、ここに載せるべきではないかなと思って、公害防止のところは例えば騒音だとか、いろんなところの指標がまだほかにもあるというふうに思いますので、そのようなことも含めてちょっと検討が必要ではないかなというふうに感じているところですが、何かありましたらお聞かせください。

◎秘書企画課企画政策グループ主幹兼市制50周年推進担当(小出健二君)

確かに(1)(2)の指標設定で別の指標を用い、かつ違う施策で五条川のBOD値については設定をさせていただいています。

なかなか水辺環境をどうよくしていくかというところの指標設定というところは難しい部分があるんですけれども、現状、実績評価の中ではこの数値というのを変えようというところまでの議論に至っていないのは事実でして、ここに少し書いてあるとは思いますが、据え置くとか数値をちょっと見直しますというようなことが書かれてはいますが、今言われた内容も含めて少し環境保全課とも話をしてみようというふうに思いますので、よろしくお願いたします。

◎委員（堀 巖君） 広域連携のところ、記述を読むと北名古屋とか書いてあります。具体的に書いてないですけど、流域関係市町村のところ、上流部との連携ですよ。そこら辺を今後次期計画ではどのように考えているのかというところがありましたらお聞かせください。

◎秘書企画課企画政策グループ主幹兼市制50周年推進担当（小出健二君）

もちろん上流部、五条川という一つの川で見たときの広域の連携ということになりますので、江南市さん、大口町さん、犬山市さんとの連携というのは引き続き視野に入っています。

ただ、具体的な行動という部分でどうした取組ができるかというのは、この第4次の総合計画の期間中ずっと情報交換といいますか、環境保全課とも話をしながら進めてきたところでもあります。1つはやはり市民団体同士の連携ですとか、情報交換というのが非常に有意義であろうということ。また、そこに県も含めて情報交換していくことで、よりいい取組ができるんじゃないかというようなところの方向感共有しているんですけども、具体的にどう進められるか、進めることが必要かというところの結論まではなかなか至らない部分がありますので、方向感大きく変えずに取り組めることを具体的にしていきたいというような状況でございます。

◎委員（梅村 均君） 五条川の保全・整備ということで、また次期に向けても引き続き大きな修正なく取り組んでいくということでもあります。これは方向はいいと思うんですけども、細かいことで魚釣りルールをつくりましたけど、こういったものが本当に活かされているのか。内容としてはこのルールが100%適切であったのかとか、そんなところも少し意識しながら次の計画を進めていってもらいたいなと思うのと、あと一豊橋と彦太橋の茂みがあるんですけど、草が結構生えている、彦太橋のたもとですかね。あそこはどうなんでしょうか。あまり機能しているようには見えなくて、どっちかというときれいばっさりしてしまってもいいんじゃないかという、そんなような意見もあるんですけど、そういった整理整頓、五条川の保全の中でつくるばかりじゃなくて、整理整頓も含めて進めていくような、そんな計画であるといいなと思っています。意見ですけど、何かコメントがあればお願いできればと思います。ビオトープにも関係すると思うんですけど、そんなことを思っています。

◎秘書企画課企画政策グループ主幹兼市制50周年推進担当（小出健二君）

確かに川の中に関しての部分で、景観的な部分も含めて考えるとどういった方向感で進めるのがいいのかというのは議論のあるところかなというふうに思います。こちらやはり愛知県さんと水辺を守る会さん、またナチュラリ

ストクラブさん等々団体さんそれぞれの御意向などもありますので、そういったところをしっかりと調整しながら、最適などといいますか、よりベターなどといいますか、方法での整備ということになっていくかと思えます。

こちらは総合計画というところもありますけれども、第3次の五条川自然再生整備等基本計画によるところが大きいものですから、その中で検討しながら進めていきたいなというふうに思っております。書いてあるように、やはり市民とともに推進していきたいというような思いが一番強いところでありますので、そうした部分をしっかりと踏まえて進めていけたらいいと思っています。

◎委員長（黒川 武君） それで、魚釣りルールについては何か。

◎秘書企画課企画政策グループ主幹兼市制50周年推進担当（小出健二君）

魚釣りルールの個々の今定めた内容がどうだというところの意見はあまり情報としてやり取りしていないもんですから、その辺りはそういった御意見があったよということでお伝えしながら、改正できないものではないと思っていますので、そのような形で担当課のほうにもお伝えさせていただきます。

◎委員（梅村 均君） もう一つだけですけど、(3)の水辺環境のネットワーク化の中の②の水辺の生物多様性の保全のところの成果到達点の最後のところですけど、低水路を造って生き物のすみやすい水辺を創出することができたということで書かれているんですけど、実際にどんな生き物がいたとか、そういうことも分かってみえればそんなことを記述しておく、より具体的な成果として表れるんじゃないかなと思うんで、そんなところも踏まえながら議論して次の計画もつくってもらえたらなと思えます。

◎秘書企画課企画政策グループ主幹兼市制50周年推進担当（小出健二君）

そういったところも把握できるように考えていきたいですけど、なかなかちょっとこうした部分の実態というところまで把握できているかどうか分かりませんので、少し意見を聞いてみたいと思えます。

◎委員（堀 巖君） 関連してですが、ビオトープネットワークについては、この間執行機関側の議会における答弁としてはちょっとトーンダウンぎみなニュアンス。この記述にも今後継続していくかどうかを検討するという。緑の基本計画は今審議中だというふうに思いますがけれども、要は個々の下にぶら下がる基本計画的なそういう計画と、総合計画の考え方が、やっぱりその審議会等に引っ張られる形でトーンダウンしていくことがあり得るのかどうか。総合計画審議会と個々の審議会との位置関係について、ちょっと再確認しておきたいんですけども。

◎秘書企画課企画政策グループ主幹兼市制50周年推進担当（小出健二君）

基本的に前段で言われているようなところは御承知のところ、なかなか難しい部分があるということをお願いしてきているんだと思います。関係性の部分で言いますと、むしろどちらかというところ逆かなと思っていて、緑の基本計画のほうでトーンダウンしていくようなことはあまりないかなというふうには思います。

ただ、そこで出された意見の中で、やはり会としてといいますか、検討の場として方向感が出れば、それを踏襲して総合計画として定めていきますし、そこでやはり分野別というところで見るときに思いが乗ったものをこちら側で全体としてどう最適化できるかというところの中でブレーキをかけるということももちろんあり得るのかなとは思いますが、そちらの議論が消極的なものを総合計画で引き上げるかどうかというあたりのところは今後の全体のバランスを見てというところになるかと思いますがけれども、しっかりコミュニケーションを取りながら進めていきたいと思えます。

◎委員（大野慎治君） 今後の積み残した課題のところ、全ての事業に言えるんですけど、環境イベントに参加者が増える方策を検討し取り組んでいく必要があると、コロナ禍の中で今後こういうことの記載という部分のところの課題がかなりあると思うんですけど、今現状どのように考えているのかというところ、かなり課題があるなど、しばらくの間は。考えているんですけど、どのような考え方があるのか。まだこれから検討していくのかというのが、方向性だけお聞かせください。

◎秘書企画課企画政策グループ主幹兼市制50周年推進担当（小出健二君）

今後、ここで言っている環境イベントというのがまさに水辺を中心としたイベントのことにはなるんですけども、やはり基本的に子どもを対象としたイベントであったりだとか、場所が特定の場所で行われるイベントであったりだとかというところ、中身はよいものにしていっている努力をしていると思うんですけども、実際参加者というところでの結果というか、そういうものがなかなかついてこないとか、そういった部分で市の中で、ほかの分野も含めてですけども、ジレンマみたいなものを感じているのは事実で、そこに対してどういうふうに周知をしてアプローチをしていくか。また、人数じゃない成果とか、そうしたものをどう捉えていくかみたいなところは全体として少し議論はしているところなんですけれども、やはり担当課からすると一つそういった参加者が増えるというのがやりがいとか、達成感にもつながってくるのも事実なものですから、こういった課題というところではそうした部分がある程度出てしまっているとか、記述になってしまっているのかなというふうには思います。

全体としてやはり子どもの数がちょっと減少傾向にあたりだとか、そういうところもあるので、子どもさんと親と一緒に参加できるようなイベントに切り替えていくとか、その辺り努力は引き続きしていく必要があるのかなというふうには思っています。

◎委員（堀 巖君） 今のところで、例えば水辺環境教育となるとやっぱり学校との、ビオトープもそうですけど、連携というか、例えばユニバーサルデザインなんかは学校の授業を受け持ったりしてずっとやってきましたよね。ああいった形で市民団体や市民が学校に入って環境問題を授業するとか、そういう取組というのは過去あったのか、今後そういう議論があったのかどうなのかちょっと教えていただきたいと思います。

◎秘書企画課企画政策グループ主幹兼市制50周年推進担当（小出健二君）

小学校は限られますけれども、五条川小学校などでは学校の時間を使って生物調査などを行ったりはしています。やはり地域性もありますので、全ての学校でそういったことが均等に行えるような形にはならないと思うんですけども、やっぱり学校というのは非常に施策を打っていく側からすると魅力的な場所であって、ただ学校側はいろんな分野からそういったオファーがあって、いろいろと調整というのは難しいというのも事実で、今後ますますそういったカリキュラムの問題もあると思うので、どういうものを学校の中でやっていくのがいいのかというのは市全体で統一感を出してやっていくのがいいのか、学校ごとにそれぞれ先生方の御意見も聞きながら選択されていくという形がいいのかというのはあると思うんですけども、現状はやはり学校ごとの色というか、学校ごとでやる内容が変わっているというのが現状でもあるし、これまでの方向感でもあるのかなと思います。

ユニバーサルデザインに関しても、やはり学校によって確保してくれる授業の数といいますか、時間数はやっぱり差が出ていまして、そうした部分でいうと取組、理解の差も出てきているというふうに思っております。

◎委員（堀 巖君） 僕はユニバーサルデザインも大事だけど、環境問題というのはこれからのすごい大事な柱の一つなので、差が出てきてもらっては困ると思うんですよ、子どもたちに。だから、そこら辺でもう少し積極的に環境教育というのを執行機関、教育委員会の中の範疇かもしれませんが、やっぱり口出しをしていく。総合教育会議の中でも訴えていくというところが必要だと思いますが、いかがでしょうか。

◎秘書企画課企画政策グループ主幹兼市制50周年推進担当（小出健二君）

環境の分野が今後ますます重要になってくるという共通の認識は持っておりますので、そうした中で具体的にどういった取組ができるかというところも

ありますけれども、そうした場というのはあるものですから、お伝えしながらというふうには考えていきたいと思えます。

◎委員長（黒川 武君） 他によろしいですか。

〔「はい」と呼ぶ者あり〕

◎委員長（黒川 武君） 続いて、次の基本施策のほうへ入りたいと思えます。

公園緑地に入ります。

発言を求めたいと思えます。

◎委員（水野忠三君） A基本施策の総括的評価の中の主な積み残し課題及び新たに生じた課題のところの点の3つ目でございますが、令和2年度、今年度策定予定の緑の基本計画との整合性を図っていく必要があるというところの緑の基本計画、こちらのほうの今年度策定予定ということなんですが、計画策定の進捗状況などをお伺いできればということと、あとその内容と関連して整合性を図っていく必要があるというのは具体的には、例えばということでもいいんですけれども、例えばこういうところとかポイントといいますか、どういうところを考えておられるのかお伺いしたいと思えます。

◎秘書企画課企画政策グループ主幹兼市制50周年推進担当（小出健二君）

まず1点目ですけれども、今月の3日の日に今年度に入りまして初めての都市計画マスタープラン緑の基本計画の検討委員会のほうが開催をされております。昨年度はアンケートを行いまして、どちらかという都市計画マスタープランの方向性みたいなところを先行して議論をし、今回の6月3日の会議で初めて緑の基本計画の部分の内容を少し資料として提示したところでありまして、議論はこれからという部分になります。そうしたこともありますので、まだその議論をする前にここの中ではなかなか表現ができないというような状況から整合を図っていくというような言葉が使われています。

委員の皆さんも御承知の部分も多いかと思うんですけれども、この公園と緑という部分で見たときには、公園は県下の部分で見ると面積等は広くない。やはり市域が狭いということなどもありますので、公園をどんどん増やして県下平均まで上げていこうというそのところには、なかなか向けない部分があります。少しずつ整備を進めているというような状況。

一方でここで言うと(3)の施策になりますけど、緑の保全・育成、この辺りの部分で民間による緑の部分はどうしていくかだとか、そうしたところが議論の中心になっていくのかなというふうに思えます。資料を見ても保護樹、保護樹林等々指定制度がございますけれども、実際は下降ぎみといいますか数は減ってきているような状況で、なかなか4次の計画のとき

にはこれを増やすという目標の中で進めていますけれども、維持していくのにお金もかかるというようなところの中で、改善は図ってきていますので、こういった緑の部分がやはり主な論点になっていると思います。

◎委員（水野忠三君） それで、今ちょっとお金の話も若干あったかと思うんですが、上のところの社会情勢の変化や国・県等の動向から見た次期計画の主要課題というところで、点の1個目の中の平成31年4月に追加された公共施設等適正管理推進事業債というのがありますけれども、こちらはこういったものかということとをまず教えていただきたいということと、積極的にこういうのを活用していくお考えなのか、要するに借金がある程度増えても今金利が安いからとか、そういうお考えがあるのかどうかお伺いしたいと思います。

◎秘書企画課企画政策グループ主幹兼市制50周年推進担当（小出健二君）

こちらは公園施設の長寿命化を図っていくというところで、市としても長寿命化計画というのを既につくっているんですけども、当初、長寿命化計画に基づいて国費を頂きながら遊具ですとか照明、ベンチ等の更新作業を進めてきておったんですけども、国のほうの補助の要件が変わりまして、岩倉市の規模で今までどおりに整備をしているとお金がもらえなくなりました。これは岩倉市だけじゃなくて、近隣の市町も規模の小さいところはそのようなことが起こってしまっていて、実態として国のほうが公園の長寿命化が全く進んでいないというところから、補助は出せないけれども起債の対象にするよということで、制度が大きく動いたというところでもあります。

現状は、適正管理推進事業債を積極的に活用してリニューアルをするとか、そういったところまでの結論には全く至っていない状態で、今回第5次計画の中で公園の在り方といいますか、公園の方向性みたいなのを決めながら、その中で起債を使ってまでリニューアルしていく必要があるかというようなところを議論していくというような流れになります。

◎委員（堀 巖君） 公園がさっき1人当たりの面積とすれば低いほうから数えて何番目というところなんですけれども、一方田んぼや畑という緑は多いわけですね。それを民間の緑として捉えて、市全体として考えるのも一つの方策だというふうに思います。

それから、民間の緑化でいう一つの工場の緑化については、規制緩和によって、僕は間違った解釈だと思っていますけど、あれはやっぱり自然的条件と社会的条件、2つの側面から見て緩和すべきところは緩和すべきというのが法律の趣旨だったにもかかわらず、企業誘致を進めるという、それだけをもって緩和してしまったということとをまず押さえておく必要があると思いま

す。言いたいのは、そこら辺の岩倉市のさっきの現状と田んぼや畑、それからあと実際子どもたちや大人の憩いの場である公園が、今後の地球温暖化によって遊べる場所になっているのかどうなのか。例えばひさしがある公園が少な過ぎるとか、いろんな具体的な課題があるので、それを一つ一つ細かいところでクリアして行って、使える緑というのを増やして行ってほしいなというふうに思いますが、いかがでしょうか。

◎秘書企画課企画政策グループ主幹兼市制50周年推進担当（小出健二君）

最初に言われた辺りは議会の中で議論もあつての状況ということですので、前段としてお聞きいたします。

公園のリニューアルに関しては、まさになかなか夏休み期間中に公園の遊具が熱せられているとか、そういった課題があるというのも事実で、現状先ほどちょっと私も発言が不足している部分があったかもしれないんですけども、やっぱり危険な遊具というのはすぐに修繕をしたり撤去をしたりということは行っていますけれども、全体的なリニューアルというようなところは少しブレーキをかけているような状況です。今回新しい計画になっていくに当たって、やはり今の時代に合った公園の在り方みたいなところは少し議論をしております、休憩をするにもひさしがない、その辺りは担当課とも話しながら検討していますので、そういった方向へのリニューアルというのは視野の中には入っているのかなというふうに思います。

直近ですけれども、夢さくら公園の整備に当たってはやはりそういった屋根のある場所での休憩できるスペースがあるといいというような市民の意見もあって、事務棟を生かして休憩スペースを設置したりだとか、ベンチも屋根つきのとかちょっとしたものですけど、ひさしつきのものを設置するというようなところで検討を進めていますので、そういったニーズがあるということも含めて今後検討を進めていきたいと思えます。

◎委員長（黒川 武君） 他に発言はありませんか。

◎委員（梶谷規子君） 公共施設の緑化推進で評価が三角になっているんですけど、緑化を新設することができずに増加していないということで、来年はさっき言われたように夢さくら公園で増えるのかなとか、今後どんなふうに増やしていこうかというところでの議論が緑の計画と併せて検討されているんでしょうが、市役所の2階の部分の、高層ビルなんかで2階の部分の庭園、ああいうのも緑化に入れているんでしょうかね。市域面積が狭いので、民間なんかでもそういうところ、2階、3階のベランダ部分の緑化を進めるとか、そういった推進なども今後必要じゃないかと思うんですが、どうなんでしょうか。

◎秘書企画課企画政策グループ主幹兼市制50周年推進担当（小出健二君）

必要性は市のほうも認識しているところなんですけれども、民間の建物に対して、いわゆる規制というか、そういったものをかけていくという以外の部分で行政として何ができるかというようなところを中心に議論はしています。

なかなか難しい、維持管理費も含めて民間企業としてそこに取り組んでいただけるかどうかというのは難しいところで、この辺り緑の基本計画の中でもどういう議論がされていくかというところをお聞きしながら、こちらとしても整合を図っていきたいというふうに思っています。

◎委員（大野慎治君） 僕も個別の施策のところの既存公園の魅力化・長寿命化というところで、次期に向けての方向性と書いてあるんですけど、今どうして公園の長寿命化というと、昔設置したときの安全基準と今の安全基準が違って、それを見直せと。滑り台の下に今砂場とかあるところがいっぱいありますけど、あれは本来は今の基準だと離さなきゃいけない。だから、公園の遊具を更新したりしてリニューアルしろということが国の方針なんです。だから、必要最小限と書いてあると方向性が国の方針ともちょっと違うので、必要に応じてというふうだと思っただけで、本来は。必要最小限と書くとおかしくなっちゃうので、必要に応じてと思うんですが、見解をお聞かせください。

◎秘書企画課企画政策グループ主幹兼市制50周年推進担当（小出健二君）

国の方針というところとのずれというのは、国の当初イメージしていた方針どおりに財源の手当てが今されない状況というのが前提にあるというところではあるんですけども、遊具の更新というところに対しての必要最低限というような表現になってしまっていますので、今言われるように必要があればやっていかなきゃいけないという認識は持っていますので、ただできるだけ経費を効率的に運用していくためには、配置が変わってくるとなると、それなりのリニューアルをしたほうがいいんじゃないかというようなところでこのような記述になっているかと思います。

◎委員（大野慎治君） やっぱり子どもの安全・安心というのは一番重要性が高いし、コロナのときも公園の親子利用というのはすごく多かったので、公園の在り方というのはもうちょっとニーズが高いというものを認識していただいて表現していただきたいと思いますので、よろしくお願いします。

◎委員長（黒川 武君） 意見でよろしいですね。

他に発言はございませんか。

〔挙手する者なし〕

◎委員長（黒川 武君） ないようでありますので、先へ進めさせていただきます。

きます。

次は、基本施策、総合的な環境政策の推進に入ります。

発言をお願いします。

◎委員（堀 巖君） 地球温暖化防止のところの太陽光発電とかの関係なんですけれども、売電の関係とか今の現状、ここにも見直す必要があるというふうに書いてありますけど、その現状と今後の課題、それから農地なんか建てられて、照り返しで苦情が来たりとかいう話も聞いていますけれども、そういったことであるとか、もし何か情報としてあるんなら教えていただきたいと思います。

◎秘書企画課企画政策グループ主幹兼市制50周年推進担当（小出健二君）

太陽光発電システムについては、売電の仕組みがどんどん変わってきて、今の流れとしては御存じの部分もあるかと思うんですけれども、単体での設置に対しての補助はやめまして、愛知県の取組に倣って、一体型での導入に対する補助に切り替えてきております。これは一定の期間必要な方への補助を設置することによって、一定の役割は終えたというふうに考えております。今後は蓄電池ですとか、そういったシステムですね。見える化するようなシステムで総合的に取組を進めていきたいというところであります。ひとまず今後も今そのような状況のまま続いていくと思います。

後段の民地のソーラーパネルの話とかは、ちょっと私ども把握できていない部分になりますので、またよろしく願いいたします。

◎委員（堀 巖君） もう一点、さっき榊谷委員からあった屋上緑化の話がここに出ています。併せて壁面緑化もやっぱり市域面積が小さい岩倉市にあっては、企業等でこの普及を促進するということは非常に大事だと思っておりますが、さっきの規制ということでなくて、やっぱりインセンティブを生むための何か給付的な方策、補助的な方策、そういったことが国や県や市レベルでどのような状況にあって、今後どのように見ているのかというのを教えていただきたいと思います。

◎秘書企画課企画政策グループ主幹兼市制50周年推進担当（小出健二君）

国のほうの取組として、一定そうした枠組みはあるというふうに認識しておりますけれども、それを受けて市としてどのような取組ができるかというところの議論については総合計画の実績評価の段階ではちょっとできていません。緑の基本計画の中でそうした話題が出ているかというのもちょっと把握できていませんので、今後担当課とも話をしながら進めていきたいなと思います。

ここの部分で言うと、やはり都市整備課の所管する部分と環境保全課の所

管する部分というところの違いもありますので、その部分は私どもも間に入ってしっかりと調整しながら緑の重要性というのも認識していますので、そうした部分の取組ができるかというのは一緒に考えていきたいなというふうに思います。

◎委員長（黒川 武君） ここで申し訳ありません、委員長としてちょっと意見をさせていただきます。

1点だけ、地球温暖化の話が出ました。今、市内である方が磁気の使用したクリーンエネルギーの研究開発を進めてみえる方があって、この1月に特許庁のほうに特許の申請をされたと、そういったことを私情報としてお聞きしました。私はその方に環境保全課と一度御相談くださいと、そのようにアドバイスを送ったところ、どうも最近環境保全課でお見えになられて、自分の進めている事業についての説明と、それと市に対するお願いをされたということもお聞きしましたので、一度これは意見として申し添えておきますので、また担当のほうにその辺の情報も得ていただきたいなと思います。お願いします。すごい方が見えると。

◎委員（井上真砂美君） 環境問題ということで、今SDGs、登録している市町村も結構あると思うんですけども、近隣でもあると思うんですけど、岩倉の方針、この場面で聞いていいものかどうかちょっと不安ですけども、ありましたらその辺の登録の可能性について等、お話聞かせていただけるとありがたいです。

◎秘書企画課企画政策グループ主幹兼市制50周年推進担当（小出健二君）

すみません、登録というのは私の想像のところで行くと、官民連携のプラットフォームみたいな、そういう会に対しての会員登録の話と捉えていいんですか。

つい先日もそういった近隣も含めた自治体の加入状況みたいなお知らせも来て、案内も出ておりました。ただ、一定メリットを考えると、情報収集が中心というのと、そうした取組を進める企業さんとのマッチングみたいなところがありました。総合計画の中では一定2030年という目標とするところの年次が一緒ということもありますし、これから大事な取組だという認識はあります。ですので、一定程度総合計画の中でもSDGsというところの見える化はしていくつもりではありますけれども、それに特化してこういう新たなプロジェクトを動かすというようなところの議論ができていないわけではないので、今そういったヒントになり得る可能性はあると思うので、お金がかかるわけではないので会員登録等々については検討させていただきたいと思います。

◎委員（井上真砂美君） 今のことに付け足しましてですけれども、去年はSDGsの講習会、研修会に行ってきたところ、会員登録するといろいろ支援やお金の面でもできるので、それとか企業さんもお手伝いできますよというような話もありましたので、ぜひ市町村でも提案をというようなことを言われたので、ちょっとどこで言おうと言いながらこんな場所になってしまいました。またその辺、先ほど検討すると言われましたので、またよろしくお願いいたします。

◎委員長（黒川 武君） 他に発言はよろしいですか。

[挙手する者なし]

◎委員長（黒川 武君） 続きまして、廃棄物・リサイクルの基本施策に入ります。

発言を求めます。

◎委員（鬼頭博和君） 次期計画の主要課題というところに、2番目のぼつのところに食品リサイクル法に基づき取組を進めることとされている食品ロス削減に向けた取組が必要であるということで、第5次で入っていくということだと思えるんですけども、第4次は個別施策とか、そういったところには今回入っていないんですけども、こういった食品ロスの取組というのも重要なことだと思いますので、こういった個別施策の中に入れていくというお考えはあるんでしょうか。

◎秘書企画課企画政策グループ主幹兼市制50周年推進担当（小出健二君）

個別施策の中というところの表現なんですけど、個別施策の名称のようところで体系化していくというところにはまだ至らないかなというふうに思います。

ただ、やはりここに課題として入れてありますように、大変重要な課題だということもあります。この環境の部分で言いますと、次期環境基本計画というところのポイントもあるので、そうしたところで具体策を示しながら総合計画の中では総合的に推進していくというようなところかなというふうに思っております。

◎委員（鬼頭博和君） 分かりました。なかなかこれからは食品ロスというのも重要な課題になってきますので、総合計画のほうでもちょっと、個別施策はなかなか難しいということでもありますけれども、しっかりとまた取り組んでいただきたいなというふうに思います。

◎委員（大野慎治君） せっかく鬼頭委員がいいことを言われたので、フードドライブとかフードバンクの取組はされているので、それが個別施策のかなという、いい取組だと僕は思っているんですけど、個別施策として評価

の高いというか、いい取組のやつは入れていただいたほうが、今、鬼頭委員のおっしゃったとおりだと僕も思いますので、市として取り組んでいることを記載していただきたいと思いますが、いかがでしょうか。

◎秘書企画課企画政策グループ主幹兼市制50周年推進担当（小出健二君）

イメージとすると、現行の形でいくと施策の下にある主要事業の中でそういったフードドライブ、その固有名詞が出るかちょっと分からないんですけども、そういった見せ方はできるかなというふうに思っています。

現状、福祉のほうの取組としての支援の一部という形でも今フードドライブのほうを進めていまして、今言われたことも踏まえて環境のほうでそういった位置づけができるか考えてみたいと思います。

◎委員（大野慎治君） 担当が環境保全課さんが窓口になっていたので、ここで発言させていただきました。大変申し訳ございませんでした。

◎委員（梅村 均君） Bのごみ減量化・資源化の指標ですけれども、民間のリサイクルとか新聞販売店の回収だとかされているということが分かったということで、こういう数字というのはなかなかつかめないものなんですか。公共だけ捉えていても、だんだんきっと公共の数字は減っていくような気がして、資源化がされていないというような見方がされてしまうのも何かと思って、民間のほうの数値は取れないものでしょうか。

◎秘書企画課企画政策グループ主幹兼市制50周年推進担当（小出健二君）

どこまでお話ししていいか分からないんですけど、ある程度同じような話を私どもとしていまして、協力ベースでは報告は頂いて一定環境保全課の中では把握されていると思います。ただ、やはり総合計画の数値だとか、廃棄物処理計画の中での数値と見たときに、回収した後の処理ルートとか、疑うわけではないんですけども、公共で回収した分はルールに従ってきちっと処分をして資源化しているという中で、量だけでそういうものを見ていいんだろうかとか、そういった議論を実はしています。

ただ、一方で委員さん言われるように、公共での回収が増えていくということが本当の目標なのかというようなところも既に議論はしているところで、ちょっと結果としてどういう指標でお示しできるか分からないですけども、なるべく市民にとっても分かりやすく、みんなで取り組みやすいような目標にしていきたいなという思いはありますので、引き続き環境のほうとも相談していきたいなというふうに思います。

◎委員（片岡健一郎君） 関連でお聞きします。

今、公共にプラスで民間の集積がかなり増えていると思うんですけども、市内においても。集積場所におけるルール違反对策というのは、公共の場所

に関してだと思えるんですけども、見ていますとやっぱり民間の集積場所でもかなりあふれてしまったりとか、非常にそういった状況が見えるんですけども、先ほどいろいろ民間のほうともお話ししているという中で、そういったマナーとかルールのことをお互いの情報共有する中で何か市のほうからもお願いしたりとか、そういったお考えってある。実際も今しているのか分からないですけども、その辺のお考えをお聞かせください。

◎秘書企画課企画政策グループ主幹兼市制50周年推進担当（小出健二君）

一定やり取りをする機会はあるので、そうした内容についても事細かくやっているかというのはちょっと把握していないですけども、情報交換等はされているものだというふうに考えています。

あと、ちょっと付け足しでさっきの話なんですけど、民間ベースの回収というのがやはり市民に限らないというところ、例えばスーパーなんかはいろんな地区の方が持ち込んでみえて、その分母のところが分からなくなってしまうというような課題もちょっとあるというところも含めて補足させていただきます。

◎委員（堀 巖君） 社会情勢の変化や国・県との動向のところのプラスチック資源循環戦略とレジ袋の海洋汚染の関係で、この記述以降新たな情報としてというか戦略ができて、市の考え方がどのように変化しているのかということがありましたら教えていただきたいと思えます。

◎秘書企画課企画政策グループ主幹兼市制50周年推進担当（小出健二君）

この情報以降、細かい情報収集のほうは私どもはちょっとしておりませんが、予定どおり今月末をもってしてレジ袋の無償での提供というのはなくなって、有料化が義務化されると。それに対して市としてこれまでそういったルールといいますか、法的なものがない中で協力をし合ってきた内容をどう変化させていくかという議論は必要だろうなというふうに思っていますけれども、すみません、国のほうの詳細な内容はちょっと把握してないです。

◎委員（堀 巖君） はい、分かりました。

もう一点、不法投棄の関係で目標値が20件ということで、大幅にクリアしていると、多分見直しがされるというふうに思いますが、岩倉市の不法投棄の全国的、あるいは県から見た水準はここに書いてあるように効果が現れて良好だという判断なのかどうなのかというところを教えていただきたいというふうに思います。

◎秘書企画課企画政策グループ主幹兼市制50周年推進担当（小出健二君）

傾向は減少傾向というので間違いはないということです。

一方で、それが全国的に見てどうかというところまで、すみません、企画

のほうでは把握してないんですけれども、柔軟に不法投棄のカメラを移動させるようなことにも対応しているというようなことと、お聞きしているのは過去多かったエリアが、具体的に申しますと工業団地の今発掘をしているような辺りのところに割と数があつて、そこがこのような開発の動きがあつて、天保橋の事業があつたりなんかして、そういう抑止といいますか、抑制効果があつたのかなというふうなところもありますので、なかなか特に不法投棄というのは市民の人がされているかどうかというところが一番疑問があるところで、ちょっと離れたところに置きに見えるというか、そういった傾向もあるもんですから、市内での意識を上げていくことが必ずしも投棄の数につながるというところでもないというふうなところは御理解も頂きながらというふうに思いますが、全体として様々な施策の効果があつて数が減ってきているということには、方向感には間違いがないと思っています。

◎委員（堀 巖君） そうですね、市民以外の方が多分捨てに来るという人が多いと思いますので、例えば名神高速道路のトンネルみたいなところがよく捨てられていたり、いまだに結構見受けます。ですから、この地域という捉え方、地域との連携というのは他市との連携、一宮市との連携とか、もうちょっと広域的な視野が必要だというふうに思いますが、その点いかがでしょうか。

◎秘書企画課企画政策グループ主幹兼市制50周年推進担当（小出健二君） そうした視点は必要かなと思うんですけど、具体的に連携というところまでいくのか、それぞれの市町村がそれぞれで努力をしながら対応を考えていくのか。今後の社会でいきますと、カメラというところであれば車でびゅーっと来てそれをというふうなところが見受けられれば、そうした情報をやり取りしながら対策を考えていくというのも必要だというふうに思います。

◎委員長（黒川 武君） 他に発言はありますか。

〔挙手する者なし〕

◎委員長（黒川 武君） 先へ進めさせていただきます。

次は、生活環境の向上の基本施策の検討に入ります。

◎委員（堀 巖君） 議会とかでも何回もここは質疑しているところですけども、アダプトプログラムのことについて、課題として参加数、新しいところが見込めずにいるという、伸び悩んでいるというところが書かれていると思います。やはりずっと長年やってきている事業施策なので、何かひとひねりないといけないのかなというふうに思うんです。そのひとひねりがなかなか具体的な提案ができずに申し訳ないんですけれども、私なんかもプログラムには参加していませんけど、近くの道路の雑草なんかの処理、家の周

りはしたりもしていますし、何か事業に当てはめるんじゃないなくて、もう少し柔らかなニュアンスで自分の身の回りの10メートル、50メートルぐらいの範囲をきれいにしましょうみたいな取組というのを、さっきの企業のインセンティブじゃないですけども、市民のやる気になるような取組というのは何か考えられないんでしょうか。

◎秘書企画課企画政策グループ主幹兼市制50周年推進担当（小出健二君）

私もいろいろ考えながら、ひとひねりがなかなか出てこなくてあれなんですけど、おっしゃられるようにやはりそういうのに登録してまではやれないけれども、できることはやっていたらいいような方もいらっしゃるのも事実かなというところ。

あと一方で、成果指標型というようなところで何か行政として把握できる数値をつかんで、その数字を追っていくというようなところとのせめぎ合いのような感覚もあるのかなというふうに思います。引き続き制度としては必要な制度かなと思いますし、より登録が進んでまちがきれいになる。まちへの愛着が高まっていくというようなところが本来の大切な部分かなというふうに思いますので、そうした考えの下に知恵を出し合って進めていきたいと思えます。

◎委員（梅村 均君） 下のほうの空き地の適正管理ですけども、所有者等に指導して苦情の解決ができたということですが、積み残し課題としてなかなか応じてもらえないケースもあるということでもあります。応じてもらえないケースがどのぐらいあるかは分かりませんが、あまり数多く出てくるようであれば何か罰則規定を設けるとか、岩倉市清潔で美しいまちづくり条例で罰則を例えば公表するだとか、何か立札を出してイエローカードだとか、それぐらいのことまでしていかないとなかなか進展はしていかないかなということも少し感じるんですが、そういったさらに突っ込んでいくような議論というのはなかなか出ていないんでしょうか。

◎秘書企画課企画政策グループ主幹兼市制50周年推進担当（小出健二君）

ジレンマを感じながら話はしていますけれども、今具体的にお話しいただきましたけど、罰則だとか、そういった踏み込んだ議論は現状しておりません。

◎委員（水野忠三君） 今の点で関連なんですけど、たしか税金のほうの話で所有者が不明な場合に使用されている方という話があったと思うんですが、こちらのほうも例えば所有者が特定できない場合に、現状のところを使用している方に何らかの要請をすとか、要請を従っていただければペナルティーとか、そういうことは考えていらっしゃるでしょうか。

◎秘書企画課企画政策グループ主幹兼市制50周年推進担当（小出健二君）

基本的にはなかなか使用もされていない状態なので、ちょっと不清潔な状態になって苦情が入ってということが多いので、使用されている方と所有者とのマッチングというのも難しく、所有者の特定が、これはスピード感がちょっと欠ける場合があるよということを表現していて、どちらかというところと最初に質問していただいた、なかなか応じてもらえないということが課題として大きいというふうに認識しております。

◎副委員長（木村冬樹君） (3)の斎場の整備というところで、そもそも生活環境の向上という基本施策の中にこれを入れておくべきかという議論が多分あると思います。また、なかなかいろいろ整備がされてきているとは思いますが、北部聖苑はね。だけど、今後適正な管理がされていくということが大事だということと、もう一つはちょっと嫌な言葉ですけど多死社会と言われていたものが到来するという中で、斎場が足りなくなるというような議論も一方ではあるということで、ちょっとその辺もこの10年の中でどう変化があるか分かりませんが、想定したような議論を進めていただきたいというふうに思います。

◎秘書企画課企画政策グループ主幹兼市制50周年推進担当（小出健二君）

おっしゃるように、先を見るとそういった社会がやってくるというようなところもあるんですけど、一定そういったのももう少し長い目で見ると一過性のものというような捉え方もできる可能性があって、非常にコストの部分を考えても難しい問題なんだろうなというふうに思います。

一方で最初に言われたように、総合計画の中にこういった斎場の整備というものを入れていく必要があるのかというところで、今後組合のほうでこうした計画の必要性を少し事務レベルで確認すると大きな何か計画が直ちに動くという状況ではないよというところまでお話は頂いているので、方向感とすると5次には斎場という言葉が出てこなくなる可能性が高いかなというふうに考えています。多死社会という言葉もなかなかセンセーショナルな言葉でもあるので、表現するかどうかというところもあるんですけども、一定そうした課題というのは認識はしつつあるところではあるので、生活環境の向上という施策の中でどう捉えていくかというところでいくと5次には出てこない項目になりそうだなということでもあります。

◎委員長（黒川 武君） 他に発言はありますか。

〔挙手する者なし〕

◎委員長（黒川 武君） ないようですので、先へ進めさせていただきます。

次は、防災・浸水対策の基本施策に入ります。

発言を求めます。

◎委員（堀 巖君） 防災体制の充実のところ、防災情報ほっとメールの登録者数です。これ分母がスマートフォンだとかパソコンのメールも含めて、岩倉市民にどのぐらいの普及率があるか分かりませんが、マイナンバーカードの普及率が100%を目指している岩倉市にあって、これこそ100%を目指すべきではないのでしょうか。いかがでしょうか。

◎秘書企画課企画政策グループ主幹兼市制50周年推進担当（小出健二君）

今の現状の情報伝達の考え方ですけれども、おっしゃられるように全ての方に情報が届くというのが目指すべきところではありますが、私もちょっとどんな世代か分かんないですけど、僕より若い世代だとメールを見ない、そういうことを言われるような世代も出てきていまして、やはりLINEですとか、様々な媒体によって100%を目指していくという考え方であるのではないかなというふうに思います。

◎委員（片岡健一郎君） 関連ですみません。今LINEという言葉が出ましたので、指標に公式LINEのアカウントもプラスするといいいのかなと思うんですけど、今多分1,200人ぐらい登録があるので、そういう重複して登録される方もおるかもしれなんですけど、一つの指標として追加してはどうかと思うんですが、その辺はいかがでしょう。

◎秘書企画課企画政策グループ主幹兼市制50周年推進担当（小出健二君）

LINEのアカウントを指標にしていくという考え方ももちろん必要かと思います。

ただ、現状は緊急時の伝達方法というところで、ここでほっとメールを分野別に登録ができるので、そういう形を取っています。LINEも公式にアカウントを追加してからちょうど1年弱、もうすぐ1年経過していきますので、現状の使われ方がどうだというところの分析もしながら検討していきたいというふうに思います。

◎委員（堀 巖君） さっき住基カードの普及率を引き合いに出して言ったんですけど、やっぱりそのぐらい安心・安全、この防災に対するところが命ですよね。だから、そこの指標は特に例えば家具防止器具の割合50%にしていますよね。これやっぱり100%にして命を守るという姿勢を見せるべきだし、できるだけ5次の目標値というのは、この安心・安全に係る部分というのは特に高めの設定というか目標を高く掲げて近づける努力をしていただきたいというふうに思うんですが、いかがでしょうか。

◎秘書企画課企画政策グループ主幹兼市制50周年推進担当（小出健二君）

担当課ともよく話をしながら、目標値のほうは設定していきたいというふうに思います。

◎委員（水野忠三君） 将来的な課題だと思うんですけども、マイナンバーカードが普及する中で、例えば防災関係との連携などは考えておられるかどうか。よく言われるのは医療関係との連携というのはよく聞くんですけども、例えば防災関係で避難所でカードリーダーみたいなのが置いてあって、マイナンバーを通すとこの人はそこに避難しているということが分かるという、要するに行方不明とか連絡が取れないということがなくなるという、把握するのにマイナンバーカードと連携して各避難所にカードリーダーを置いて一元管理するとか、例えばですけどそういうようなことというのは議論として検討される予定はあるでしょうか。

◎秘書企画課企画政策グループ主幹兼市制50周年推進担当（小出健二君） 現状は検討されていない状況です。今回そういったマイナンバーカードの交付の議論がこういった状況下で少し関心度も高まってきていますので、やはり効率が実際に上がってきて、社会的にもカードの重要性というか必要性みたいなのが認知されてこないと、なかなか先行してそういう取組をしても難しいのかなというところもありますので、状況を見定めながらといいますか、見極めながら考えていきたいというふうに思っています。

◎委員長（黒川 武君） 他に発言はありますか。

◎委員（梅村 均君） 防災意識の高揚ですか、地域防災力の強化の関係で、最近の感染症のことを踏まえての事情ですね。マスクとか消毒なんかもそれぞれが自助で整えていくというような、そんな啓発も必要だと思いますので、そういったところも含めた検討をしていってもらえればなと思います。これは意見でございます。

もう一点ですけども、次の③のボランティアとの連携強化の中で、なかなかボランティアコーディネーターの養成までつながらないという状況ということで、こういうのはなかなかいきなりコーディネーターまで任せるような人を募るとハードルが高いような気がして、その前に何か災害時にはボランティアをやってもいいですよというような人を集めて登録していくような、そんな仕組みが先にあって、その中からコーディネーターを養成していくというほうがいいと思うんですけども、何かそんなような順序立ててのやり方というのはどうでしょうか。

◎秘書企画課企画政策グループ主幹兼市制50周年推進担当（小出健二君） 課題として、まさに講座をやって、講座の参加者がコーディネーターにすぐ登録していただけるかということに課題を感じてこのような記述がしていますので、担当課のほうにもちょっとお伝えしながら取組をしていきたいなというふうに思っています。

たくさんの取組をしないと、なかなか成果のほうにつながらないような分野でもあるかなというふうに思いますので、お伝えのほうをさせていただいて、何とか強化につながるような施策としていきたいというふうに思います。

◎委員（大野慎治君） 単位施策の(3)防災施設や設備等の整備・充実で、次期に向けての方向性というところで、避難所における非構造部材の耐震化率、市内小・中学校への変更を検討すると、これ例えば北小学校は建て替えると、今、非構造部材が一番問題になっているのは北小学校ですけど、すぐ1年後に達成しちゃうんですよ。ほかのところでも非構造部材というところはあったかなというのが、できるだけ直してきた。そこの指針のところの考え方というのはどういうふうに考えているんでしょうか。

◎秘書企画課企画政策グループ主幹兼市制50周年推進担当（小出健二君）

非構造部の部分で見たときに耐震基準が全て満たされているかというのと、そうではないというふうにお伺いしています。具体的にはここで言っているのは、窓ガラスの飛散の話だったかと記憶しておりますけれども、避難所の部分でやはりガラスが飛び散って避難に影響があってはいけないというようなところで、そうした部分を少し目に見える身近な課題として捉えようかというふうなところで記載をしたというふうに記憶しております。

あと、天井の部分だとかいろいろあるかとは思いますが、天井じゃない、ごめんなさい、天井は対応できておりますので、ガラス、サッシ中心の部分だったと思います。

◎委員（水野忠三君） 若干関連で、公共施設の耐震化率100%で、その目標数値を達成しているという記述があるんですけども、今後いわゆる分散避難などで民間の例えばホテルなどという声もありましたが、民間とか、要するに公共施設以外のところへ避難する場合にはそういう民間の施設といいますか、公共施設以外のところの耐震化率もチェックする必要があるんじゃないかと思うんですが、その点はいかがでしょう。

◎委員長（黒川 武君） ちょっと現実的な議論じゃないような気がするけれど、旅館、ホテルというのは岩倉市内では県からリストに入ってきていないということなのね。そういうことなんです。それでもなおかつ民間でというのは、友人宅とか親類宅とかということ。

◎委員（水野忠三君） 避難することになった場合の、その先。

◎委員長（黒川 武君） そういう意見もあったということは、また今後ヒアリングなどでも担当のほうに、在宅避難でなくて友人宅とか親類宅とか、そういったところの避難も今後促進という形になるので、そういったところでの耐震化という意見も出ていると、そういうことでよろしいですか。

◎委員（水野忠三君） はい。

◎委員長（黒川 武君） 何かこのことで説明できることがありましたら。

◎秘書企画課企画政策グループ主幹兼市制50周年推進担当（小出健二君）

ちょっと観点は違いますが、住宅というところの施策の中では市内の住宅施設の民間も含めた耐震化率の向上というのを目指して進めておりますので、そうしたところで率が上がっていけば全体の安心につながっていく、安全で安心なまちづくりにつながっていくというふうに思っています。

◎委員長（黒川 武君） 他に発言はございますか。

〔挙手する者なし〕

◎委員長（黒川 武君） 先を急いで申し訳ございません。何とか今日の時間でやりたいなと思っていますので。

続いて次の施策、消防・救急に入ります。

〔挙手する者なし〕

◎委員長（黒川 武君） 発言は特にないようですので、次の基本施策、防犯・交通安全に入ります。

発言を求めます。

◎委員（梅村 均君） 目標値指標ですけど、防犯面において安心できると考えている市民の割合の目標が27%ということで、安心できていると考えている市民の割合ってもっと多くないとまずいんじゃないかと思うんですけど、実績的にはそれに近い数字なんですけど、この辺は全国的にこういう傾向なんですか。これだけ低い数字というのは、何か議論されていることがあればお聞かせいただければと思います。

◎秘書企画課企画政策グループ主幹兼市制50周年推進担当（小出健二君）

これアンケートの結果によるものなんですけれども、設問の設定の仕方というところもあるんですけれども、防犯という部分の面で非常に広く、それぞれの方によつての解釈の仕方というのが幅が広いというようなところと、この自治体でこういったアンケートをしてもこうした部分は高くは出ないというようなところはお聞きしています。

目標として高く持ちたいという気持ちもあるんですけれども、どうしても実績値というところから見て目標設定をしているのが現状でありますので、こうしたこの間のアンケートの動きを見ても、若干平成20年から見れば上昇はしていますけれども、直近の動きとして下降ぎみでもありますので、その動きを見ながら最適な目標値の設定のほうはしていきたいというふうに思っております。

◎委員（堀 巖君） いつぞやの大野委員の一般質問で、空き巣だったか

何か、結構岩倉市が悪い状況にあるという一般質問が記憶にあるんですけども、そこら辺の現状をきちっと押さえた上での評価をすべきだと思うんですね。それってどこら辺で記述すべき話なんですか。

◎秘書企画課企画政策グループ主幹兼市制50周年推進担当（小出健二君）

基本的には現状というところで言うと、犯罪発生数のところに影響をしてくれています。この中の内訳というところに、空き巣被害というのが出てきています。実態とすると全体の件数が下降ぎみ、抑制傾向にあるんですけども、域内で見たとときに、もう少し広いエリアで見たとときに岩倉の空き巣の発生が多かったという事実も事実でありますので、ある程度全体の犯罪発生を抑えていきたいという気持ちがやっぱりありますし、それは大事なことだと思いますし、個別具体的に分析をしながら対策を進めていくということも必要だと思いますので、その辺りは(1)の単位施策の中で整備を進めていくものと、もう一つはハード的な部分での対策も進めながらというふうに考えています。

指標のほうはまだ決定ではないですけども、犯罪発生件数についてと次期計画に向けての方向性のところに記載が少ししてあるんですけども、やはり犯罪が発生しないまちであることがこの施策全体の目標になり得るのではないかという議論はしてしまっていて、アウトカム指標と捉えて、上のAの欄の目標のところに置き換えていこうかという議論をしているところであります。その中でそれぞれの個別の施策で取り組んだ結果がそこに反映されてくるというようなイメージで考えています。

◎委員（宮川 隆君） 今の答弁そのままだと思うんですね。過去に自転車盗だとか、いろんなものが多かった時期があって、そのときの評価としては、たしか新宿歌舞伎町の発生件数とほぼ同じだというような、そういう表現がされて、それを受けて防犯パトロールだとか地域の市民に御協力を頂いて、消防車両なんかが出動した後に、帰りに巡回して回るだとか、そういう地道な努力をした結果、数か月後には率としては半減したという実績もあります。

何が言いたいかというと、今の市の考え方として子育て世代が住みよいまちナンバーワンを目指しているという状況の中で、いろんないいことを表現していても、ここに書かれているように犯罪発生件数が全国的に上位を占めているなんていうことが書かざるを得ない状況というのはあまりいいことではないので、先ほどのグループ長の答弁じゃないですけども、やっぱりかなり上のランクにおいてでもこういう表現をしなくても済むような、そういう防犯の在り方、対外的なアピールの仕方みたいなものを考えていただきたいと思いますと思うんですけども、いかがでしょうか。

◎秘書企画課企画政策グループ主幹兼市制50周年推進担当（小出健二君）

成果を出してアピールできるといいと思いますので、より高い位置の目標に持っていくことというのはやっぱり意味のあることかなというふうに思いますし、どうしても先ほどの質問とも関係してくるんですけど、アンケート調査というのは大きな事件があったりだとか大きな事故があると、そうした印象に引っ張られてしまうというような傾向もあるというところがありますので、一定きちっとつかめる数字の中で目標を立てて取り組んでいくというところは大事なところかなというふうに思いますので、よろしく願いいたします。

◎委員（片岡健一郎君）　そういった意味でははっきり分かる数字というのが犯罪発生件数なのかなというふうに思うんですけども、平成20年の数字から平成30年を比べるとかなり1,200件あったものが370件ぐらいに、7割減ぐらいですかね、激減していると思うんですね。やっぱり何かしらの効果があったんだろうというので思うんですけども、防犯カメラを設置したりとか、そういった効果もあると思いますけど、これは岩倉が防犯カメラを設置したからこんなに減ったのか、近隣市町においても犯罪というのは減っているのか、その辺もやっぱり加味しながら検証していただければなというふうに思います。効果があったと認識されるものであれば、次の計画でも注力していただきたいなというふうに思います。意見です。

◎委員（梅村 均君）　地域の自主防犯活動の育成・強化のところですけど、記述の中でいろんなパトロールをされているというところですけど、担い手の確保が課題であるということを書いてありました。参考までですけど、例えば消防団との連携なんかもいいんじゃないかなと思って、消防団は19日防火のパトロールをしていますけど、1分団当たり約20人いるんですけど、車両が1台で意外と手があいている人がいるんですよ。だから、もしそんなようなところが有効に使えるならば、何台か車両、青パトとかそんなようなことをやりながら、車両はちょっとどうしていいかまた考えなきゃいけないんですけど、そういうものも有効に使ってやれるといいんじゃないかなと思いました。

ただ、消防は消防の役割があるんで負荷が増えないようにというのはちょっと気をつけなきゃいけないんですけど、一応そんな状況があるということで、いろんな団体と連携したらどうかなと思います。意見です。

◎委員（梶谷規子君）　目標値の数字で非常に疑問なんですけど、犯罪発生件数も目標値が370件もあっていいのかなとか、交通安全の人身事故の件数も目標値が220件もあっていいのかなというのを思うんですが、交通事故でいくと目標値よりも29年、30年度は減っているわけですから、人身事故の件

数の目標値の数字の高さというのはどうなのでしょう。

◎秘書企画課企画政策グループ主幹兼市制50周年推進担当（小出健二君）

目指すべきところはゼロだというのは共通しているところだとは思いますが、やはり10年間の目標というところと、10年間に取り組むべき内容というところを見たときに、現状値というものがあって10年後の数値を設定するというところで、今の計画ではこのような数値になっています。今後、第5次においても一定目標指標の設定をするんですけれども、やはり達成できなかったことに対する懸念というか、そういったところもあるのも事実として、達成可能でありながら高い目標であるというのがバランスのいいところかなと思うんですけれども、なるべく実績だとか、その動き、取れるべき対応を見ながら、取組を見ながら適正な目標数値の設定には努めていきたいと思っていますのでよろしくお願いいたします。

◎委員（水野忠三君） 関連なんですけれども、やはり犯罪発生件数とか交通事故人身件数、件数で目標値を設定するというよりも、例えばですけれども対前年減少率、前年の件数分の例えば今年度と前年度の差という、要するに前年の減少率などを目標数値にしたほうが前の年よりもこれだけ減らせたというような、そういう目標のほうがいいのではないかとこのように思います。やっぱり件数で370件、もちろん未満ということだとは思いますが、やっぱり件数で目標を設定するというのが違和感を感じる。例えば市民の人がもし仮に見た場合に、やっぱりこれは違和感を感じるのではないかとこのように思いますので、生の件数ではなくて、例えば対前年減少率とかほかの指標などで目標値を設定したほうがいいのではないかとこのように思うのですが、その点はいかがでしょう。

◎秘書企画課企画政策グループ主幹兼市制50周年推進担当（小出健二君）

減少率というのも一つの考え方かなというふうに思いますけれども、やはり長いスパンでものを見ていくと対前年減少率だけが数字で上がっていると、それはそれでどういう動きをしているのかというのがちょっと分かりにくくなってしまいう側面もあるかと思っておりますので、その辺りを見極めながら設定のほうをしていきたいなというふうに思います。例えば基準年度に対してどうかという減少率であるとか、いろんな考え方はあると思っておりますので検討させていただきたいと思っております。

◎委員（堀 巖君） 先ほどの片岡委員の意見は非常に貴重な意見なわけですが、犯罪と防犯カメラのことはここに書いてあるように検証が絶対必要なんですよ。その検証がどの程度進んだ上でこの総合計画の記述がなされるのかというところが一つ焦点になると思います。私はやっぱりそこで検証して、

大きくかじを取って防犯カメラも増やすんだとか、そういう実行動に出るわけで、僕はもともと世界各国の先進的な防犯カメラの設置国の犯罪者と犯人の拿捕率、捕捉率は高まるけれども、犯罪発生率は全然効果がないと。例えばロンドンのそういう論文の報告だとか、そういうことを加味しながら岩倉市の方向性をきちんと10年後どうするんだというのは見据えていかないといけないというふうに思いますが、いかがですか。

◎委員長（黒川 武君） 意見でよろしいですか。

◎委員（堀 巖君） はい。

◎委員長（黒川 武君） 別に考え方をまとめなくていいですよ。まさに堀委員の言う論点の一つであります。

今の意見に対して、企画政策グループ長、お答えすることがあれば。

◎秘書企画課企画政策グループ主幹兼市制50周年推進担当（小出健二君）

まさに検証が必要だという認識も一致していますので、第5次の計画の中でお示しできるかちょっと分かりませんが、論点としていただいていたかなというふうに思います。すみません。

◎委員長（黒川 武君） ありがとうございます。

同じことの繰り返しはやめてくださいね。

◎委員（大野慎治君） (3)の交通安全意識の高揚の中で、交通ボランティア等の自主活動の育成・支援で、成果で人数とか書いてあるので、こうするのは人数が増えていったほうがいいと思うやつは、これを指標にしていたほうがいいと思うんですが、10年前からするとかなり増えているんです、僕が知っている中でも。そういったところの指標というところをつくるというお考えはないのかどうかというところ、課題のところも含めて聞いていますので、ちょっと御見解をお聞かせください。

◎秘書企画課企画政策グループ主幹兼市制50周年推進担当（小出健二君）

これからまさに検討していくところなので、参考にさせていただきます。

◎委員長（黒川 武君） 参考にしてください。

お諮りします。ここで相当時間が過ぎておりますので、5分程度休憩を取って2時50分から再開させていただきます。よろしくお祈りします。

本日はできれば3時半をめどにと思っておりましたが、ちょっと厳しいかなと思いますので、4時には確実に終わるようにまた皆さんの御協力のほうをよろしくお祈りします。

それでは暫時休憩します。

（休 憩）

◎委員長（黒川 武君） 皆さんおそろいですので、休憩を閉じ、会議を再

開します。

続いて、第3章、豊かな心を育み人が輝くまちの基本施策、生涯学習から入ります。

発言を求めます。

◎委員（水野忠三君） 生涯学習全体についてなんですが、一般質問等でもあったかと思うんですが、やはりオンラインであるとかウェブであるとか、要するにその場に集まらなくても生涯学習の場が確保できる、そういう方策の検討なども総合計画の中にも入れるべきではないかと思うんですが、その点はいかがでしょうか。

◎秘書企画課企画政策グループ主幹兼市制50周年推進担当（小出健二君）

このシートということではなくてということですかね。現状、これは昨年度の実績評価ということになっていまして、今年に入ってから環境の変化の部分には内容として対応していないということであります。この間、策定スケジュールもちょっと止まってしまって、再開していく中でコロナの影響みたいなものをどう見ていくのかというのは、少し事務局サイドとしても難しい判断になるのかなと思います。具体的に分野別に情報化といいますか、情報技術をどう取り入れていくかというようなところを個々の施策の中に入れていくというよりは、一つの施策の中で情報化を進めていくんだというようなところの記載。その中に分野ごとにオンラインでの受講だとか、そういったものが入ってくるのかなというようなふうに今のところは考えています。

ただ、一方で教育等については、この後学校教育が出てきますけれども、重要な部分にはなってくるので、その辺りをどう反映させていくかというのはこれから検討させていただきたいと思います。

◎委員（大野慎治君） 生涯学習に取り組む市民の割合は10から20%、その割に生涯学習の場合はメニュー、内容の数に満足している市民の割合はずっと80%を超えて高い比率になると思うんですけど、この生涯学習に取り組む市民の割合はちょっと年代別に分けると大分意見が変わってくるのかなというところがあって、どうしても現役世代はそこまでできないとか、もうちょっとこの指標自体の在り方というところを今後選別する必要があると思うんですが、その辺の考え方というのはどういうふうに考えているんでしょうか。

◎秘書企画課企画政策グループ主幹兼市制50周年推進担当（小出健二君）

おっしゃるように実態の動きというようなところで見ると、そういった御指摘もあるかなというところと、一方で全世代を対象にした学びというようなところとの兼ね合いかなというふうに思いますので、ちょっとそういった細

かく刻んでというところでの分析、それを目標にという視点はなかったので、ちょっと考えてみたいと思います。

◎委員長（黒川 武君） 他に発言はございませんか。

◎委員（堀 巖君） ちょっと個人的な意見になっちゃうかもしれませんが、記述が指定管理者制度ありきの記述になっています。日本全国を見れば、指定管理者制度から直営に戻している公の施設がいっぱいあります。そのことについての考察は一切なされずに、岩倉市がこの前定めた民間委託のガイドラインの見直し、あれがベースになっていると思いますが、そこら辺の違和感が私にはあります。これは意見です。

◎委員長（黒川 武君） 他に発言はございませんか。

〔挙手する者なし〕

◎委員長（黒川 武君） 特段ないようでありますので、次の市民文化活動の基本施策の検討に入ります。

発言を許します。

◎委員（谷平敬子君） 今年の市民文化祭というのはまだやるかやらないかというのは決定されていないと思うんですけども、今後こういうコロナのことがあって、この文化祭的なことはどういう方針というか、どういう感じでやっていかれるのかなとお聞きしたいです。

◎委員長（黒川 武君） 現状の問題が、コロナの問題というのはこの中には一切触れられていないというか、つくる時点で想定されてないものですので、今おっしゃられたことはまさに今度の5次総の中でそういったものや取組はどうしていくのかというのは一つの論点になると思うんですけど、今のこのことについて秘書企画のほうで。

◎秘書企画課長（伊藤新治君） 取りあえず現在のところで決まっているのは、盆踊りのところまでは中止となっているんですけども、体育祭から市民ふれ愛まつり、あと今の文化祭、音楽祭以降のものはまだこれからやるかどうか。それも市が決めるわけではなくて、今実行委員会をそれぞれ持っていますので、市民の意見を聞きながらどうしていくかというところを今検討しているところですので、その辺はまた御報告させていただきます。

◎委員（谷平敬子君） ありがとうございます。

◎委員（梅村 均君） 音楽のあるまちづくりの中のジュニアオーケストラですけど、団員数が減ってきているということでもあります。次に向けての方向性、団員数増加ということは書いてあるんですけども、こういう指標として団員数増加を目指すのであれば、指標に団員数も入れるべきではないかという意見でございますし、あと来場者数をいろいろ指標としているんだっ

たら、来場者数を増やす施策が次期計画に向けての方向性として出てこないといけないんじゃないかなというふうに感じております。意見でございます。

◎委員長（黒川 武君） 今の意見に対しまして。

◎秘書企画課企画政策グループ主幹兼市制50周年推進担当（小出健二君）

おっしゃられるとおりにかなと思いますけれども、やはり団員数を一定確保していくことが来場者数の増加にもつながっていくというような議論の中での記載になっています。ちょっと記載が不足している部分があるかと思しますので、次期計画の目標値、まだちょっとこれからはなりますけれども、ここでも据え置くというようなことも書かれていますので、しっかり議論していきたいと思えます。

◎委員（梅村 均君） もう少し突っ込むと、あまり団員数が減ってくるならジュニアオーケストラが本当に必要なのかという、そんな観点でも議論してもらえたらなと思えます。何のためにこのジュニアオーケストラをつくった点がちょっと私も把握してないんですけど、そんなところを踏まえて議論も必要になってきているんじゃないかなと。ある意味音楽のあるまちづくりであれば学校単位の部活動の指導で収まる範囲だけでもいいじゃないかとかあたりもするかと思うので、その辺のジュニアオーケストラがどうして必要かというところも考えてもらう時期なのかなと思っています。

◎秘書企画課企画政策グループ主幹兼市制50周年推進担当（小出健二君）

立ち上げてから年数もたってきておりますので、そうしたところも含めて議論はさせていただきたいと思えますが、逆に継続していくことで価値もいところもあるかと思えますので、担当課の意見も聞いて検討させていただきたいと思えます。

◎委員長（黒川 武君） 他にございせんか。

[挙手する者なし]

◎委員長（黒川 武君） ないようでありますので、次の基本施策、文化財の保護・継承の施策に入ります。

発言を求めます。

◎委員（水野忠三君） 単位施策(3)の個別施策①山車巡行の継承と情報発信というところで、次期計画に向けての方向性のところで、第2段落なんですけど、山車巡行開始400年を記念する事業についての進捗把握に努め適切な支援を行うというふうには書いてあるんですけど、次期計画に向けてではあるんですけど、具体的にどういう支援を今の段階で考えられているのか。これまでの課題を踏まえて、どういうものを検討されるのかをお伺いできればと思えます。

◎秘書企画課企画政策グループ主幹兼市制50周年推進担当（小出健二君）

山車に関してのことということによろしいですね。

基本的にそれぞれの地区のものという認識でもおりますので、保存会の方々の御意向というのを最大限に尊重しながら、市としてできる支援をというふうに考えております。大きな大きな節目だと思っておりますので、市としてもできる支援というのをしていきたいんですけども、具体的にまだこうした支援をしてほしいとか、こうしたことをやりたいというようなところに至っていないというふうにお聞きしておりますので、そうした具体的な内容が出てきてからこちらとしてできる支援というのを考えていきたいなというふうに思っております。

◎委員（鬼頭博和君） 基本施策の総括評価Aのところなんですけど、積み残しの課題及び新たに生じた課題ということで、埋蔵文化財発掘に伴い増加する文化財の展示、公開機会の充実を図る必要があるとともにというところなんですけど、場所が不足しているということで、以前議会のほうからも東小の空き教室を利用してというような提案をさせていただいたんですけども、そういったことに関してはどのようにお考えでしょうか。

◎秘書企画課企画政策グループ主幹兼市制50周年推進担当（小出健二君）

個別具体的な話というところはちょっとお答えしにくいというか、できないんですけど、場所が不足しているというところは共通認識になってきていますので、早い対応が必要かなというふうに考えています。

今年に入ってちょっとこのことに対しての担当課との意見交換もできていない状態になりますので、今後その辺りも聞き取りながら必要な対策を打ってきたいなというふうに思います。

◎副委員長（木村冬樹君） 関連してのこと、担当課とよく話し合っていたきたいということで、展示することも大事だし、データベースをやっていくということも進んでいないんですよ、実際には。だから、せっかく大昔から岩倉に人が住んでいたまちなんだということで、いろんなものが出てくるわけで、そういうものをやっぱり大切に市民の目に触れさせるという道筋を何らかの形でつけていただきたいなというふうに思います。

議会も多くの方が一般質問で取り上げてたじゃないですかね。関戸さんの掛け軸のやつとか、井上さんも取り上げていますし、そういう本当に大事にしている人たちが多いい市だというふうに思いますので、そこがちょっとやっぱり不十分さがあるんじゃないかなというふうに思いますので、担当課とよく相談して目標設定していただきますようによろしくお願いします。

◎秘書企画課企画政策グループ主幹兼市制50周年推進担当（小出健二君）

よく議論したいと思います。本当にここまでの大きな開発といいますか、発掘等々も含めてなってくるというところはちょっと予想していなかった部分もありますので、そこも踏まえた議論をしていきたいと思います。

◎委員長（黒川 武君） 他に発言はございませんか。

[挙手する者なし]

◎委員長（黒川 武君） 次のほうへ進めさせていただきます。

基本施策、図書館でございます。

発言を求めます。

◎委員（堀 巖君） 全体をざっと通して見る限り、図書館の機能がまちづくりの中核になるというところの視点がちょっと薄いように感じますが、その点についていかがでしょうか。

◎秘書企画課企画政策グループ主幹兼市制50周年推進担当（小出健二君）

この計画を当初につくった時点での視点というところで、そこまでの視点があったかどうかというのはちょっと分からないところもありますけれども、最近はそのコミュニティの中核、まちづくりの中核にということの事を言われるようになってきておりまして、そうしたことは認識しておりますけれども、やはり現状の施設というものを考えたときにそうしたところに耐え得る規模、機能を持ち合わせているということでもないのかなというところもありますので、少し大きなことも書いてあります。積み残しの課題のところは施設の更新について準備を始める必要があるというようなことも勇気の要る記載なんですけれども、こうしたところも視野に入れながら、今ある機能の中でより質の高いサービスを提供していくというところを当面の目標としながら進めていきたいというふうに考えております。

◎委員（大野慎治君） 単位施策で、図書館のサービスの充実で、貸出延べ人数というのが指標になっているんですが、僕はいろいろ研修を受けに行くのと図書館の利用人数のほうが大切で、貸出人数じゃないよという。2階で勉強する子たちも図書館を利用しながら勉強しているし、いろんな部分で本当は指標としては利用人数のほうが正しいんだという、なかなか今うちは人数が把握できるような状況ではないですが、そういったところの観点というのはどういうふうにお考えでしょうか。

◎秘書企画課企画政策グループ主幹兼市制50周年推進担当（小出健二君）

堀委員の意見と少し似たというか、開かれた図書館であって、そこが居場所にもなるようなところの考え方はまさにそのとおりですし、現状おっしゃっていただいたように利用していただいた人の数というのをどのようにカウントしていくかというところで課題もあるかと思いますので、少し目標

設定についての議論の中で検討はしていきたいと思います。

◎委員（水野忠三君） ちょっと今のことと関連するのかもしれないんですが、昔は例えば夏休みになるとよく図書館で中高生が勉強したりとかいうことがあったと思うんですけれども、そういう図書館にある本を読む目的ではない方の利用というのはどのように評価されていますでしょうか。

◎秘書企画課企画政策グループ主幹兼市制50周年推進担当（小出健二君）

そういった利用も含めて利用者が多くなる。また一方で、そうした利用から読書への促進というか、そういったところも必要な部分かなというふうに考えております。

今も多くの学生さんが昔も変わらず勉強もしていただいています。ただ、図書館みたいな静かなところで勉強がはかどる学生さんと、市役所のような開放スペースの中でのほうが違和感なく勉強が進むんだというような声も聞いていますので、多様な居場所というか空間が提供できるといいのかなというふうに思っています。

◎委員長（黒川 武君） 他にございませんか。

[挙手する者なし]

◎委員長（黒川 武君） ないようでございますので、次の基本施策、青少年健全育成・家庭教育に入ります。

発言を求めます。

◎副委員長（木村冬樹君） (2)の非行防止活動・健全な地域環境づくりの推進というところの成果指標について、この60人で続いているというのがちょっと分からないところで、多分これは学校から提出して出させるんじゃないかなと思うんですけど、だから人数的には固定しちゃうんじゃないかなというふうに思っていて、こういうのを計画指標に置くのはどうかなというふうに思うんですけど、いかがなものでしょうか。

◎秘書企画課企画政策グループ主幹兼市制50周年推進担当（小出健二君）

御推察のとおりでございます。そういったやり取りは担当課ともしております。なかなか指標設定の難しい施策というところもあります。また、第4次のところで見たときにも取組の実態をどれぐらい施策の中でできるかというのが難しい分野となってしまうのも事実でございます。施策の在り方、指標の在り方についてもちょっと全体として考えながら検討を進めていきたい施策になっています。

◎委員長（黒川 武君） 他にございませんか。

◎委員（堀 巖君） 青少年という言葉と、例えばBの(1)で自分も社会に役立ちたいと思う中学生の割合という指標自体は、何か視点が本当に青少

年、子どもたちが思っている視点ではないような気がしています。子ども条例をつくってから青少年と子どもの関係で、やっぱりちょっと視点を少し変えたほうがいいのかなという気がしていますし、ここそ子どもたちの意見をもっともっと聞いて構成するような指標をつくったり、工夫が必要だというふうに考えます。いかがでしょうか。

◎秘書企画課企画政策グループ主幹兼市制50周年推進担当（小出健二君）

課題認識としては同様の認識も持っています。実態として御存じの部分もあると思うんですけど、予算を見ても青少年の健全育成のための事業というのがどういったものがあるかというのを思い浮かべていただくと、なかなか取組の粒度というか、どうなのかなというところがありますので、その辺り次の10年に向けてどういった取組ができるのかというところも含めて考えたいと思っております。

◎委員（梶谷規子君） ちょっと関連して、そこら辺は高校生の参加みたいなところは、児童館での関わりだとか、小学生と高校生が自主的にイベントをつくっていくどうのというのなんかはやられてきていると思うんですけど、ここの中じゃないんですよね。児童館とか、そちらのほうには書かれていると思うんですけど、何かそこら辺でこっちの部分でも生涯学習課だから課が違うからというんじゃないかと、連携してそういう視点もここの中にとというのが必要んじゃないかと思うんですけど、どうなんでしょうか。

◎秘書企画課長（伊藤新治君） その辺は先ほど小出からも申し上げましたけれども、大事な施策ではあるんですが、予算配分も含めて、基本施策自体から少し大幅に第5次の在り方自体検討していきたいと考えていますのでお願いします。

◎委員長（黒川 武君） 枠組みを変えるということですね。だから、今、梶谷委員がおっしゃられたところというのは、第4次総合計画の中ではいろんな分野の中に入っている、いわゆる横串を通して言えばね。また、そういうところが今後出てくると思いますので、また発言をお願いしたいと思います。

ほかのところの基本施策につきましての発言はよろしいでしょうか。

〔挙手する者なし〕

◎委員長（黒川 武君） では、次へ移ります。

次の基本施策、スポーツであります。

発言を求めます。

◎副委員長（木村冬樹君） 1人1スポーツということをや岩倉市はずっとやってきていて、やっている人たちはいる。だけど、その把握はなかなか難し

い部分があるかというふうに思うんですね。だから、指標として上げるのは非常に難しいところがあって、個別の一つの事業に対する参加者ではなくて、もちろん市内だけじゃなくて、いろんなところで民間の場所なんかを使いながらスポーツをやっている人たちもいるわけで、そういう把握の仕方というのを何か担当課の人と相談してできないのかどうかというところ。あるいはアンケートの中で多分そういう項目があるんだろうと思うんですけど、そういうのを目標にしていくということがやっぱり大事じゃないかなというふうに思います。全体の成果指標の中としてあることはあるんだけど、もう少し参加している市民の状況が分かるようなものを指標にできないのかなという思いがあります。意見です。

◎秘書企画課企画政策グループ主幹兼市制50周年推進担当（小出健二君）

よく議論をするんですが、なかなかいい指標が見つからないというようなどころはありますので、改めて情報共有しながら考えたいと思います。

◎委員（堀 巖君） ここもこれまで自分たちが考えてきた既成概念というか常識が、例えば体育協会の事例を取っても、例えば中心、コアとなる役員さんや会長の求心力でまとまってきた、組織立ってきたというところはもう通用しない時代になってきているというふうに思うんですね。ですから、時代が10年で今のスポーツ、さっき木村さんが言ったようにいろんなスポーツがあって、いろんな楽しみ方があって、だからスポーツクラブもいろんな多種多様のやつをやっていますが、それが組織化になるかというところではなくて、ここに書いてあるように体育協会会員を増やすためではないんですよ。そこが力点ではないわけで、もう少しここもさっきの子どものところと同じように時代に合った視点で物事を見ていかないと、めちゃくちゃ時代遅れな感じの記述になっているというふうに感じます。

◎秘書企画課企画政策グループ主幹兼市制50周年推進担当（小出健二君）

そうですね、本当に組織の中で運動していくというよりは、個人であったり、特定のチームであったりというところに移行してきているのかなというのはおっしゃる部分はよく理解できますけれども、一方で組織としてしっかりと体制を維持しながら進行していくというようなどころにも意味はあるのかなと思いますので、担当課とも話をして議論していきたいというふうに思います。

◎委員（水野忠三君） Aの基本施策の総括的評価のところに戻るんですが、主な積み残し課題などの点の3つ目で、老朽化している施設もあるため、大規模修繕が必要な施設が多くなってきており、今後修繕費の高額化が見込まれるというふうに書いてあるんですが、まずそもそも修繕等がそのものにつ

いて本当に必要なのかという再検討は必要かなというふうに思っております。それは例えば岩倉市で完結がもし難しければ、近隣の市町と連携して、例えば近隣の市町の施設を利用させてもらうような協力というか連携というか、そういうことも必要になってくるのではないかとというふうに考えるんですが、そういう視点というのは必要ないかどうか確認をしたいと思います。

◎秘書企画課企画政策グループ主幹兼市制50周年推進担当（小出健二君）

市全体で見て、そういう視点というのは必要だろうというふうに思います。行政経営というか、そういったところの観点からそういった考え方はもちろん持ち合わせておりますけれども、一つの個別の分野の施策の中で、例えば他市の施設を利用しようとか、なかなかそういったところの施策としての組み込みは難しいのかなというふうに思います。

今後ここにありますように施設そのものは老朽化が進んでおりますので、新たに施設を更新できるのかできないのか。そのときに利用状況を見ながらその必要性を検討して、状況によってはそういった結論、もう少し大きな目で見て近隣の市町の施設を利用してもらうという考えは出てくるかと思っておりますけれども、なかなかこうした施策の中に書き込んでいくのは難しいのかなというふうに考えています。

◎委員長（黒川 武君） だから、そういうことから言うと第4次の、いわゆる第6章の行政のところでは広域連携という考え方というのは第5次の中でも踏襲されるかどうかは今後の検討だろうと思っておりますけれど。

他に発言はございませんか。

〔挙手する者なし〕

◎委員長（黒川 武君） 大変急がせて申し訳ございません。

それでは、次の基本施策のほうへ移らせていただきます。言いたいことは山ほどあるだろうと思っておりますが、またそれは別の場をお願いいたします。

それでは続いて基本施策、学校教育へ入ります。

発言を求めます。

◎副委員長（木村冬樹君） ずっと後ろのほうになりますが、(5)の施策の学校給食で、昨年からぐらいですけど、議論になっているのは。ですから、30年度のものには反映されていないと思うんですけど、いろいろ問題があったというふうに思います。配食が遅れたりだとか、あるいは献立に対するいろんな意見が多分議会でもあったしというふうに思うんですけど、そういったところでの評価が非常に高い評価になっているところ。それから、目標に対して、例えば県内産野菜の使用割合というのが達成しているような状況じゃないけど、こういう評価になっているだとか、すごく気になる評価だと

いうふうに思っています。

ですから、第5次に向けてというところでは、その辺を高めていくという、評価どおりの中身になっていくようなものをどう確保していくのかというところになってこようかというふうに思うんですけど、その辺で特に学校給食センターの委託事業者との話合いも含めて第5次総合計画の中ではきちんと目標を持って進めていただきたいというふうに、これは本当に強く要望したいというふうに思っていますのでよろしくお願いします。

◎秘書企画課企画政策グループ主幹兼市制50周年推進担当（小出健二君）

計画も延びてまだ間もない状況でありますので、今後の取組としてどういうところが求められているかというところはしっかり意識しながら計画に反映させるよう検討させていただきます。

◎委員（堀 巖君） 1点だけ、将来の姿ですね。少人数学級のことが書いてあります。今回のコロナも含めて少人数学級について検証が必要だという、研究を進める必要があると書いてありますけど、少人数学級については既に論文の研究成果とかかなり出ているはずで、この時点で研究がまだできていないのかというところは非常に疑問が残ります。だから、これを早急に今後10年でどういう形が望ましいのかというのは市民に対して示す必要があると思うので、早急に検討を進めて文章化というか、記述してほしいというふうに思います。よろしくお願いします。

◎委員長（黒川 武君） ただいまの意見に対して、企画政策グループ長、何か現時点で。

◎秘書企画課企画政策グループ主幹兼市制50周年推進担当（小出健二君）

記載の課題の部分は、教育の質の向上というところに尽きるのかなというところを思いますので、その部分をしっかりと議論して記載できるようにしていきたいと思います。

◎委員（水野忠三君） 単位施策(1)、個別施策④の生徒指導等の充実でございますけれども、令和元年度に設置するスクールソーシャルワーカーを中心というふうに次期計画に向けての方向性が書かれていますが、現時点でやはりスクールカウンセラーを設置したり、子どもと親の相談員を設置したりした結果、どういう課題が出てきたのかということもやはり書くべきではないかと思うんですが、今例えばスクールカウンセラーがいて、今子どもと親の相談員がいて、そういう方が直面している課題というのが書かれているかなと思うんですが、その点はいかがでしょうか。

◎秘書企画課長（伊藤新治君） 最初から言っています、これ30年度の評価シートですので、その辺まだ始まったばかりの事業のものについての課題は

書けていませんので、その辺は御承知お願いします。

ただ、その辺は第5次に向けては課題としては認識しておりますので、担当課と調整しながらそういった点についても5次で書き込んでいきたいと思っています。

◎委員（榊谷規子君） 先ほど堀委員が言われた少人数学級はまだどこにも書かれていなくて、少人数授業等であります。だから、まだまだ岩倉の中では少人数学級まで踏み込んでの方向は出してないということなので、今やれている学級はそのまま、数学や国語や分けて授業をするというやり方は進められて、そのことの検証なので、その点お願いします。

◎委員長（黒川 武君） 分かりました。

他に発言はございませんか。

◎委員（水野忠三君） 単位施策の(2)安全・快適な教育環境の充実のところの右側の次期計画に向けての方向性の中で、数値について記述がありますが、その後半の部分でトイレの乾式・洋式化によるトイレの快適化率等への指標を見直すという記述がございますが、個人的な意見としては洋式化ももちろん必要かとは思いますが、全部洋式化でいいのかどうかというのは議論があるというか、和式も洋式も両方あるほうが望ましいのではないかと、バイリンガルのほうがいいのではないかとというふうに思うんですが、その点はいかがでしょう。

◎秘書企画課企画政策グループ主幹兼市制50周年推進担当（小出健二君）

そうしたところは学校、保護者さんの意見も聞いた上で既に一部の学校で着手している話になってくるかと思っておりますので、ひとまず衛生面の問題であるとか、洋式を求める声に対応していくというところで改修に合わせて計画を進めていくという方向で考えております。

◎委員長（黒川 武君） ありがとうございます。

水野委員の視点は悪くないんだけど、今、南小学校でも、既に北小でも東小でも終わったんだけど、市としての方針に基づいて進めているので、あなたが疑問に思うところは少し担当のほうでその辺なぜそういうことが必要なのかというお考えをまずやっぱり聞く、そういう調査研究のほうもお願いしたいなと思います。場合によっては質問していただいてもそれは一向に構いませんので。余計なことを申し上げました。

議論も伯仲しておりますけれど、時間のほうも迫ってきておまして、急がせて申し訳ございません。では、学校教育を取りあえずこれで終わらせていただいて、最後の基本施策、特別支援教育について検討に入りたいと思います。

発言がございましたらお願いをいたします。

[挙手する者なし]

◎委員長（黒川 武君） 特段ないようでございますので、それでは特別支援教育の検討につきましても終わらせていただきますが、ここで申し訳ございません。既にカラーでお渡ししてあります総括評価、先ほど第2章のところでもまだ触れておりませんものですから、この基本目標2と基本目標3、これについてそれぞれ章ごとの総括評価が執行機関側でまとめたものでありますので、資料がお渡ししてあると思います。ちょっとお出しただいて、一度第2章、ここで言うところの基本目標2と基本目標3になりますが、このところの総括評価について一度お目通しを頂き、御意見も頂きたいと思っております。お持ちではございませんか。

[発言する者あり]

◎委員長（黒川 武君） お持ちでないようでしたら、また一番最後のところ、全体を通した形で総括評価をさせていただきますので、その場に委ねたいと思っております。

それでは、本日予定をしておりました第2章、第3章につきましては途中新幹線になりましたが、皆さんの御協力によりまして一定達成をさせていただきました。ありがとうございました。

続いて次第に戻りますが、次第の議題(3)その他、特段発言をしたいというものがございましたら、これを発言いただきたいと思いますよろしいですね。

[挙手する者なし]

◎委員長（黒川 武君） じゃあ3のその他のところで、最初申し上げましたように日程調整をさせていただきたいと思っております。

この第4次の総括評価は7月中に終わりたいと、そういう形で半日2回を予定したいと思っております。それで、既に正・副委員長と秘書企画のほうで事前に日程のほうの調整をさせていただきましたので、その案をお示しさせていただきますと、次の第4回は7月9日木曜日午後1時10分から開催したいと思っておりますが、このところの御都合はいかがでしょうか。7月9日木曜日午後1時10分です。御都合よろしいでしょうか。

[挙手する者なし]

◎委員長（黒川 武君） 特段異議はございませんから、第4回は7月9日木曜日午後1時10分から、このときは第4章と第5章を行いたいと思っております。

7月2回目、一番最後になりますが、この日程、第5回目になりますが、7月21日火曜日、時間も同じく午後1時10分から開催したいと思っておりますが、

御都合のほうはいかがでしょう。7月21日火曜日。

〔「大丈夫です」と呼ぶ者あり〕

◎委員長（黒川 武君） よろしいですか。じゃあこのときに第6章と、それから第4次総合計画全体を通した形ですね。最終総括みたいな形になります。それをそれぞれ行いますので、事前にまたお目通しのほうをよろしくお願いをいたします。

秘書企画のほうで、この点よろしいでしょうか。

〔「はい」と呼ぶ者あり〕

◎委員長（黒川 武君） よろしくお願いをいたします。

それでは、本日も1時10分から開催いたしました会議も2時間半近くになっております。皆様の御協力によりまして、円滑に進めさせていただきました。ありがとうございました。

先ほど申しあげましたように、7月の2回でもって第4次の総括評価のほうは終えてまいりたいと思いますので、大変ではございますが、事前にできるだけお目通し、その中での発言内容をまとめていただければなと思います。ありがとうございました。感謝申しあげまして、これをもって閉会とさせていただきます。お疲れさまでした。